

青山

AOYAMA

梅の香の

寄りてひとかに

離れざる

大崎紀夫

梅窓院通信

No.31 2007/03/01 春彼岸号

極楽の文学・俳句

「極楽の文学」ともいわれる俳句を今号では特集します。監修していただいた大崎先生の句を梅の花とともに味わい下さい。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島真成



もうすぐ春彼岸ですね、みなさまお変わりないでしょうか。

そのお彼岸に新しいイベントを企画しています。梅窓院にいるお坊さんの友人のバンドのライブ演奏で、二十代を中心とした若者ミュージシャン四グループがポピュラー、ジャズを奏でる「お彼岸ライブ イン 青山」です。

「ライブ」というのはお年寄りの方には聞きなれないかもしれませんが、いわゆるコンサートで若者からお年寄りの方まで幅広く楽しめます。お寺の行事というと、どうしても高齢の方が対象になりがちな中での新しい挑戦です。ご家族みなさまのお越しをお待ちしています。

春彼岸が明けて四月からの仏教講座ではブータンの宗教民族研究家、本林靖久先生に講義をしていただきます。ブータンは国民総生産ならぬ、国民総幸福を求める国ということで、いま世界から注目されています。そこで、「幸せについて」という演題でお話しいただく予定です。

本当の幸せ、生きている喜び、こうした基本的根源的なことについて一緒に考えてみませんか。そして、できればいつかみなさんとブータンを訪れられたらいいなと思っています。

五月の団体参拝ですが、今年は小江戸・川越の名刹、蓮馨寺をお参りし、秩父の名栗温泉を訪れます。のんびりした行程ですので、お気軽にご参加下さい。

この春はお寺の行事へどうぞ。

死

終わりは始まり

— 死に様を問うなかれ —

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

お釈迦さまが亡くなったのは二月十五日。クシナガラという旅先の小さな村でのごとと伝えられている。沙羅双樹の木陰で北枕に横たわり最後を迎えられたのである。

御歳、八十歳。

死の数日前、お釈迦さまはチュンダという鍛冶工から供養の食事を受けた。その時のキノコであるとか、お肉が原因というが、激しい腹痛と下痢に見舞われ死に至ったという。

ただ、それ以前にもうお釈迦さまはみずからの死期を感じ取っていた。

精舎にとどまつの修行と布教の旅を繰り返していたお釈迦さま。これで最後になると覚悟して出発した旅は、やはり途中で体調を崩し出したのである。

説き残した教えはないか、今死んでしまつては弟子たちは動揺しまいか。

お釈迦さまは精神統一を

ぐらし体調を整え、適当な時期が来るまで、みずからの死を延ばされた。

チュンダの供養は、お釈迦さまが死を迎えていく一つのきっかけに過ぎなかつたのである。

いつ、どのように自身の最後を迎えるか。誰にとつても大問題である。

お釈迦さまのように残された時間を計りつつ、為すべき事を果たしていったならば理想的である。

あるいはボクシング漫画『あしたのジョー』の主人公の矢吹丈が、自分の命と引き換えに世界タイトル戦を戦い抜いたラストシーンのように、「燃えたよ、まっ白に、燃えつきた」と叫びながら最後を迎えたいとも思う。とはいへ人の死はいつ、どのように訪れるかは分からない。

浄土宗の開祖法然上人は「人が死ぬ時のことなど、日頃の考え通りにいくものではない。往来で突然倒れて死んでしまう

こともあれば、お手洗いで用を足している最中に死んでしまうこともある。かつてのどんな行いが災いしたか、刀などで斬られて命を失いもすれば、火災や水難で命を落とす人も多くいる」と人の最後を捉えている。

そのうえで、上人は「たとえどういふ死に方をしようとも、日頃からお念仏を称え、極楽へ往生したいという心さえ持っている人であれば、自分が今まさに息が絶えようとしている時には、阿弥陀さまは観音菩薩や勢至菩薩と共に迎えに来て下さると信じて、そのように思い定めるべきである」と諭された。

もちろん、お釈迦さまや『あしたのジョー』のように、思い残すことなく満足して最後を迎えたい。

しかし、上人の鎌倉時代も、現代も、誰もが思い通りに人生を全うできるわけではない。境遇に恵まれず、怪我や病気に苦しみ、為すべき事を為す前にいのちを落とす。思い残すことはかりなのが人間なのである。

でも、だからこそ人は救われなければならない。今生のお別れを後生の始まりと思ひ定め、仏の国へといのちを繋げていく。

そう願ひ、お迎えがあると信じていれば、あえて死に様を問ふ必要などなくなるだろう。

(浄土宗総合研究所研究員)

団体参拝旅行

*写真提供:川越見物

— 川越 蓮馨寺と秩父の旅 —

5月12日(土) ~ 13日(日)

今回の梅窓院団参は、城下町として栄え、趣ある町並みの小江戸・川越の中心にある蓮馨寺を参拝します。夜は山と清流に囲まれた名栗温泉で1泊し、翌日は秩父を観光します。ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、沢山のご参加をお待ちしております。

参加費 三万円(お1人) 定員 30名前後

定員になり次第締め切りとさせていただきますので、どうぞお早めにお申込み下さい。(別紙案内もご参照下さい。)

※お問い合わせ 青山文化村

TEL 03-3404-8588

川越祭り会館*



蓮馨寺



時の鐘*



春彼岸法要

3月21日(水)

彼岸寄席

(入船亭 扇好 師匠 他)

午後1時～ 1階 観音堂

春彼岸会法要

午後2時～ 2階 本堂

お彼岸ライブin青山

(Pjeckae 他)

午後5時～ 開場 1階 観音堂

午後5時半 開演

I 彼岸寄席

入船亭 扇好 師匠

昭和38年長野県生まれ。昭和60年入船亭扇橋に入門。平成10年真打昇進。

古典落語を中心に活動。永六輔氏主催の「永住亭」レギュラーメンバーでもある。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまで幅広い。

柳家小きち

昭和53年埼玉県岩槻市生まれ。平成17年に柳家さん喬に入門。現在、都内各寄席で修行中。

I お彼岸ライブ in 青山

Pjeckae (ペチカ) 他

鹿児島から上京し、ライブハウスで働き始め自作自演に目覚める。ペチカ(暖炉)のような自然のあたたかさをコンセプトにアコースティックギターの弾き語りやバンドなどで、都内・地方で活動中。

(別紙案内もご参照下さい。)



入船亭 扇好 師匠



ペチカ

塔婆お申込み方法

同封のはがきを使い3月10日(土)必着でお申込み下さい。塔婆回向料は1本7千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

お檀家様へお願い

3月18日～24日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力をお願いします。

春彼岸に寄せて

「暑さ寒さも彼岸まで」、外出には好適な季節到来です。よく耳にするこの「彼岸」という言葉は、季節の用語ではありません。彼岸とは昔のインドの言葉で、パーラミター(波羅蜜)の漢訳である到彼岸を意味します。つまり、迷い苦しみが無い仏さまの世界を指しているのです。反対に、私たちが生きる煩惱渦まき苦の世界を此岸と呼びます。此岸を象徴するような事件、いじめ問題等を背景に、昨年を表す漢字一字に「命」が選ばれました。

いま私たちは、過去・現在、無量の命の縁を頂いたお陰によって、生かされているのです。その縁に感謝する姿や生き方が息子や孫の代へと、また縁となって受け継がれていくのです。これは仏教の過去世・現世・来世にわたり、物事を考える三世の思想に通じます。

「勿体無い」この日本語が世界中から注目されています。元来この言葉は仏教語で、物だけでなく、縁を無駄にすることへの悲嘆の意味も込められているのです。先祖への感謝の気持ちをお忘れず、真・善・美と表現される阿彌陀さまの世界を理想に、此岸にいる私たちは生きていきたいものです。春のお彼岸ご家族揃ってお参り下さい。

(法務)

大崎紀夫の俳句のすすめ

俳句は難しい知識や道具がいりません。

いつでも、どこでも、今日からでも作れる文学です。

俳句を詠んで心身ともに健康になりませんか。

今回は七ページの俳句コーナー「青山『俳壇』の選者

『ウェブ俳句通信』編集長の大崎紀夫先生に話を伺いました。

皆様の青山俳壇への投句もお待ちしております！

今春は俳句を詠んで健康に

五・七・五のリズムにのって

《プロフィール》

大崎紀夫（おおさき・のりお）
1940年埼玉県生まれ。63
年東京大学仏文学科卒業。
朝日新聞社に入社し、95年
から『俳句朝日』編集長を務
める。定年退社後『ウェブ
通信』創刊編集長に。著書
に句集『檣^{かりん}の実』『草いさ
れ』。俳句だけでなく、詩、釣り、
旅行の本を出すなど幅広く
活躍している。



頭の体操（右脳の活性化）

俳句を作ることはボケ防止にもつながると科学者は言っているそうです。というの、感じたことを五・七・五の言葉に表現する時に、言語能力をつかさどる右脳を使うことから。

五・七・五の短い文章だから簡単そうに感じるかもしれませんが、短いからこそ凝縮しなくてはいけないので、言葉を選ぶのは大変。でも奥深く、楽しくもあります。同じことを意味する一つの言葉でも言い方がいろいろあります。例えば、日の当たるところに出て暖まることを「日向ぼっこ」と言いますが、「日向ぼこ」「日向ぼこり」と別の言い方があるので。五・七・五の音に合わせて、どの言葉を使うか、また、文語で詠むか現代語で詠むかによっても俳句の趣も変わってきます。

また、花や植物の名前も沢山覚えるようになります。

大崎先生も俳句を始める前は、道端に花が咲いていても青い花が咲いているなと思っただけでした。でも俳句を詠むことにより青い花の名前を調べる。そしてその花が「いぬふぐり」という名前であることを知る。そういった繰り返して沢山覚えたそうです。

季節の移り変わりにも敏感になり、自然に対する親近感が増したと言います。言葉を考えてたり、覚えたりまさに脳のトレーニングです。

いつでも、どこでも

俳句の良いところは思いたったらい
つでも、どこでも詠めるところ!電車
の中でも、待ち時間でも、頭に情景を思
い浮かべればたちまち俳句の世界へワ
ープ!とても身近なものなのです。大崎先
生は電車に乗っている小1時間に4、5
句も俳句を作ってしまうそう。



句会では

句会では皆さん姓ではなく名前で呼
び合います。姓は何々家という家門を
しよっていますが、名前は個人を表します。
俳句の世界では、俳句の良し悪し等
はエリートや家の出などは関係ないと
いう考えから、敢えて名前で呼びあうの
です。

吟行(ぎんこう) 歩いて健康

俳句を作るために、郊外や名所などに
出掛けることを吟行(ぎんこう)といいます。
近所を散歩するもよし、近くのお寺に
行くもよし、旅行に行くもよし、楽しみ
ながら吟行(ぎんこう)に行つて歩いて健康になりま
しょう。また、いつも通っている道も意
識を変えて見たら、きっと新たな発見が
あることでしょう。

心にゆとり 健全な精神

「如何に窮乏の生活に居ても、如何に
病苦に悩んでいても、ひとたび心を花鳥
風月に寄する事によってその生活苦を忘
れ、病苦を忘れ、たとひ一瞬時といえど
も極楽の境に心を置く事が出来る。俳句
は極楽の文芸であるという所以である。」

高浜 虚子
貧乏でも、病気で苦しくても、自然に
思いを寄せると一瞬でも極楽の心になれ

るという言葉です。

一心に念仏をおとなえすれば、どなた
でも極楽浄土にいける浄土宗の教えとも
似ていますね。

俳句をやることにより、自然の恵みを
知り、心にゆとりが生まれます。

人とのふれあい 広がる世界

一人で作るのも楽しいけど、皆で集まっ
て作品を鑑賞・批評しあうのも楽しみの
一つ。

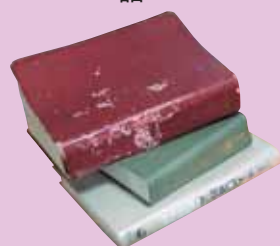
同じ季語を使用しても視点・感覚は人
それぞれ違うので新たな発見があります。
皆で集まれば俳句だけでなく、いろい
ろな会話に花が咲く。俳句を通じて、人
との会話、輪が広がっていくのは素敵で
すね。

俳句結社や俳句教室に参加してみるの
も良いと思います。現代ではインターネッ
ト上で句会を開いている人もいますとか。

(文 編集部)

〈用意する物〉

季語を一冊の本に
まとめた歳時記を用
意します。春夏秋冬、
あるいは月ごとに、
天文、人事、植物、
動物などに分類され、
ひとつひとつの季語
の説明と例句がのっ
ています。



大崎先生の入った
年季の歳時記

- ・『お勧めの歳時記』
- ・『ハンディ版入門歳時記』／大野林火
監修／俳句文学館編／角川書店
- ・『風生編歳時記』／富安風生編／東京
美術
- ・『合本俳句歳時記』／角川書店

〈読む時のコツ〉

誰にでもわかる易しい言葉で読む。
句が季語の説明にならないようにす
る。例えば「吹雪」だったら「寒い」
という想像がつくので、敢えてまた句
で寒いと読まない。

〈上達のコツ〉

句集や入門書で名句を沢山読む。昔
から現代までの句を幅広く読むといい。
自分の好きな句を何度も繰り返し読む
うちに、五・七・五のリズムが自分の
ものとなる。

【お勧めの本】

- ・『ウェット俳句通信』(雑誌)
／ウェット編集室発行
- ・『NHK俳壇』(雑誌)
／NHK出版
- ・『能村登四郎・林翔の折々の秀句』
／能村登四郎・林翔著／朝日新聞社



能村登四郎・林翔の折々の秀句

俳句を始めて
嬉しい特典

次回の「青山俳壇」に投句いただいた方
の中から抽選で三名様に大崎先生の俳句
集「草いきれ」または「榎(かりん)の實」または俳
句手帖を差し上げます。投句方法は七ペー
ジ「青山俳壇」をご覧ください。



梅窓院を囲む入々

「死んだら死んだとき考えればいい」

数え切れない名作といくつもの名言を残した さん。
左の言葉は90歳の時のもので、8年後の平成8年6月10日に
さんは亡くなられた。

亡骸は生まれ故郷の山口県岩国の菩提寺、教蓮寺に葬られたが、その時分骨された御遺骨が、昨年ここ梅窓院の墓地に埋葬された。最勝宝塔から少し奥に入ったところで、桜を愛した
さんらしい素敵なお墓だ。

今回の囲む人々は、梅窓院そして青山に縁の深い
さんを紹介する。

昭和31年、梅窓院から表参道方面に歩いて5分もしない
青山南町（現南青山）に さんは引越してきた。

有名な文人と結婚を繰り返したり、ファッションの流行を作り出された作家、
さんが還暦を迎える一年前のことだった。

以来、 さんは青山を愛し、亡くなるまでこの地を離れることはなかった。そして散歩がてらに梅窓院に立ち寄るだけでなく、自らデザインした着物を梅窓院のお茶室や境内で撮影もしている。

こうした青山との縁を大切にしたい、そしてまた、今なお多くのファンのためにも、と梅窓院にお墓を建てられたのだが、施主は
さんの後半生と一緒に過ごされた さん。

さんの肩書きは秘書だったが、 さんが実の子供のように可愛がり、そして頼りにしていた方だ。

一般的に文人や芸術家は気難しい人が多く、一人の秘書やお手伝いさんが長く仕えることは難しいのが常だが、
さんの場合は少し違った。

昭和11年に さんが創設したスタイル社発行の『スタイル』は、
さんの4番目の夫となる、当時新聞社勤務だった 氏の協力で飛躍的に部数が伸び、一世を風靡した。その 氏が書いたお手伝いさん論を読み、
さんはお手伝いさんになることを夢見たという。

そして思い切って書いた 氏宛の手紙に「よければ東京に出てきなさい」という返事をもらい、仙台から上京。

氏は自分の妻である さんの面倒を さんに頼んだのである。

「私は誰のお手伝いさんでもよかったんです。文学少女でもありませんでしたし、
先生のファンというわけでもありませんでしたから」

と さんは さんのお手伝いさんとも秘書ともいえる仕事に専念した。その仕事ぶりが気に入った
さんは、 さんと離婚したあとも さんと一緒に暮らし続けた。

その さんは振り返る。

「先生と私は相性が本当に良かったのですね。この相性が良い、というのは何ものにも変えられないもの、と今になってもつくづく思います」

恋に生き、文学に生き、桜を愛した さんは本当に青山の地を愛していたという。

青山が好きで、青山に感謝したい、青山の人々にあり

がとうございます、という言葉
をいつも口にしていた

さん。着物姿で散歩するのはもちろん青山。昔からの魚屋さんと肉屋さん、それにスーパーのピーコックも好きで、時間があるとよく散策したという。

仕事で地方に出かけることはあったが、自由な時間があったとしても遠出はせず、決まっていたも青山散歩。そんな

さんを想い、 さんは さんの第二の故郷ともいえる青山にも さんのお墓を建てることにした。これは山口県岩国までは足が伸ばしにくい、という多くのファンのためだが、その さんの心遣いがファンに通じたのだろう、多くのファンがここ梅窓院の さんのお墓にお参りしている。

さて、梅窓院のお墓には さんのこんな言葉が彫られている。

幸福は幸福を呼ぶ

そして、さらにこのお気に入りの言葉に加え、“桜は私にとって幸福の花”という桜の花びらもちりばめられている。まさに さんの心づくしのお墓だが、

さんは極楽浄土から、微笑みながら見られていることだろう。（取材協力／ 文責／編集部）



平成18年に梅窓院に建立された さんのお墓。



幸福は幸福を呼ぶ

青山の街を散歩する さん。

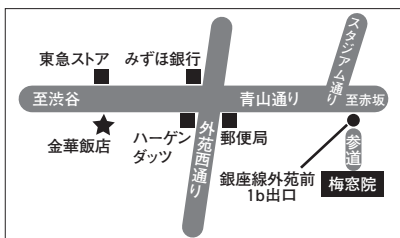
さんは
およそ40年間、
青山に住んでいた。

プロフィール

明治30年山口玖珂郡横山村（現・岩国市）生まれ。岩国高等女学校卒業後、小学校の代用教員などを経て結婚。札幌に住む。「脂粉の顔」が時事新報の懸賞短編小説の1等選ばれ単身上京、作家への道を歩み始める。その後、尾崎士郎や東郷青児と結婚交際をし、昭和11年日本初のファッション誌『スタイル』を創刊。宇野千代きもの研究所を設立など多方面で活躍するも『おはん』で野間文芸賞、女流文学者賞などを受賞し執筆活動が中心となる。昭和57年からの連載小説「生きてく私」がベストセラーになり、平成2年には文化功労賞を受賞。平成8年98歳で他界。

漢方の古書に、「お灸は百病を司る」とありますが、お灸に使うモグサはヨモギの葉の裏の繊毛で作られます。ヨモギは雑種の多い植物で、種類によって毛の長さがちがいます。モグサの品質はその毛の直径と長さに左右されますが、伊吹山のヨモギが一番上質ということで有名です。これは織田信長の命により栽培されるようになったといい、毛の太さと長さが均一に揃っているのだそうです。モグサは古いもののほうがいいと言うのは、長く晒され枯れているものの方が熱がじっくりと均一に伝わってくるので、お灸の効果も高いからなのです。

ところで、ヨモギは「下痢、吐血を止め、風寒を避け、肌を美しくする」という効能がありますが、別名餅草とも呼ばれ春先のヨモギの若芽を草餅や草団子に用いています。ひな祭りにお供える「菱餅」は紅・白・緑の三段に作られますが、緑はヨモギで色づけされています。私の田舎では、「桃の節供」にはヨモギのお団子を作っています。作り方は、ヨモギの新芽300gを重曹15gを入れた熱湯で柔らかくなるまで茹で、水にさらして（水を4～5回取り替える）固く絞る。これに黒砂糖400gを加えて混ぜ、砂糖をなじませておく。そこに餅米の粉500gを入れてこね合わせ、すりおろした山芋（50～100g程度）を加えながら耳たぶくらいの硬さに作る。これを平らな団子状にして、山で採ってきたサルトリイバラの葉ではさんで15分くらい蒸す。（包む葉は熊笹、柏の葉でもよい）



営業時間／11時～22時 年中無休
ランチ／11時～17時 デイナー／17時～22時
住所／東京都港区南青山3-1-3
（三井住友銀行B1）
TEL／03-3479-4967
HP／http://www.kinka.co.jp/



青山散歩道

金華飯店

青山 場気仙沼から取り寄せている

本格中華をリーズナブルに
青山通り沿いにある駐車を有する大型店で、アクセスも便利な好立地にある。五千円から選べる法事メニューも豊富で、大人数にも対応でき、久々に顔を合わせる親戚と和やかな時間を過ごすにはまさにうってつけのお店だ。やはり一番のご自慢は、本

ふかひれで、姿煮のみならずスープにも本物のふかひれがごろごろ入っているのには驚いた。味が濃いと思われがちな中華料理だが、炒め物や煮込み料理もやさしい味わいの中に素材のうまみが滲み出ている。

姿煮や北京ダックも含まれている一万円のコースが六千円で味わえるお得なキャンペーンは三月まで実施中。このお得な機会に、本格中華料理を是非どうぞ。

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長

大崎紀夫

◎特選

○年明くる鐘と汽笛と古時計

（評）新年を迎えたときの静けさの中にきこえるのは百八つの鐘のこえ、汽笛、それに長いつきあいの時計の音。しみじみとした年明けの気分をよくとらえた秀句です。

◎佳作

○若水をまづ仏前に供へけり

○ひたすらに生ききて卒寿屠蘇祝ふ

○初詣夫と一緒に無事祈る

○国道の出来る枯野に杭立てり

○一握の砂しろがねとなる初春

○焼芋を採す枝先よく動く

○春近し日向におはす地藏さん

○近寄れど逃げぬ猫らの日向ぼこ

○左右より父子がつかむちゃんちゃんこ

◎選者詠

○墨堤をはねゆくふくらまずめかな

（フンボイントアドバイス）

「どうしたら俳句をうまく作れるでしょう」とときどき人がいますが、そんなことを知っていたら絶対教えません。飯田龍太氏は「毎日一日一句を作るのがいいのでは」といっていますが、継続して作句に励むことが大切なのかもしれません。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。3月27日目を締切、6月発送の『施餓鬼号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

行事予定

春彼岸会法要

3月21日(水)
寄席 午後1時～ 観音堂
法要 午後2時～ 本堂
彼岸ライブin青山
開場17時～ 観音堂
開演17時半～
※詳細は3面をご覧ください。



増上寺 御忌大会

4月2日(月)～7日(土)
増上寺において御忌法要(浄土宗の宗祖法然上人の忌日法要)が盛大に執り行われます。3・4日は御忌詠唱奉納大会が開かれ、梅窓院詠唱会の皆さまが参加致します。皆様も是非参詣され、御忌法要に際して法然上人をしのび、ご恩徳に感謝いたしましょう。



はなまつり

4月6日(金)～8日(日)
寺院棟二階 本堂
お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。寺院棟二階の本堂エントランスに甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。



団体参拝旅行

—川越 蓮馨寺と秩父の旅—
5月12日(土)～13日(日)
※詳細は2面をご覧ください。

行事報告 消防訓練

梅窓院では昨年12月7日(木)に赤坂消防署の指導と監修のもとに消防訓練を行いました。日頃からの防火意識が高まり、大変有意義な訓練となりました。



協力:東京教区 城西組 教化団

平成19年度 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成19年度 前期 仏教講座を開講します。講師は昨年度より引き続いての新井先生、勝崎先生、阿川先生に加え、新たにブータンの宗教民族を研究なさっている本林靖久先生をお迎えします。どうぞお気軽にご参加ください。

全講座▶午後6時～8時 受講料▶無料 場所▶観音堂



講師 本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶 大谷大学・佛教大学講師)

講題 **ブータンと幸福論 — 宗教文化と儀礼 —**

第1回 4月27日(金) 日常の中の幸福 —GNH(国民総幸福)の視点から—
第2回 6月29日(金) 宗教世界観と祭礼 —円環する時間と空間—
第3回 8月31日(金) 死をふくむ幸福 —日本人の死生観との比較から—

講師より 国民総幸福を国政に掲げ、世界一幸福な国と脚光を浴びるブータン。ブータンの現実と死をふくむ豊かな宗教文化に光をあて、日本人にとっての「幸福のカタチ」を描いていきたい。



講師 新井 俊定 先生(天然寺住職 大正大学出版会主管)

講題 **仮名法語『一言芳談』を読む**

第1回 5月 9日(水) 法然のことばを中心に
第2回 7月27日(金) 明遍僧都のことばを中心に
第3回 9月 6日(木) 法然の門弟のことばを中心に

講師より 『一言芳談』は、法然上人やその弟子、明遍僧都など中世の念仏者が自身の信仰について、平易なことばで、端的に語られている。そのことばを読みながら、行き方や信仰について考える。



講師 勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学教授)

講題 **仏・菩薩 — その教えと信仰**

第1回 6月7日(木) 文殊・普賢菩薩とその信仰
第2回 7月5日(木) 弥勒菩薩とその信仰
第3回 8月2日(木) 大日如来とその信仰

講師より 日本仏教の流れの中で、日本文化を広く見渡す視点からの講義を目指したい。今回は、文殊・普賢、弥勒、大日という、よく知られた仏・菩薩の解説である。配布資料を利用して、できるだけわかりやすく説明したい。



講師 阿川 正貫 先生(浄土寺住職 大正大学講師)

講題 **中国の名僧たち**

第1回 4月11日(水) 釈道安
第2回 5月15日(火) 鳩摩羅什
第3回 8月 8日(水) 法顕

講師より 従来は中国の著名な寺院や遺跡を取り上げお話ししてきましたが、今回からは色々な名僧の生涯や業績を年代順に紹介し、その求道のお姿を通じ一緒に学んでゆこうと思います。

発行/梅窓院
発行日/平成19年3月1日
発行人/中島 真成
編集/青山文化村
住所/〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8588
FAX/03-3404-8446
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/kouhoubu@baisouin.or.jp
題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆祝下

武鈴子先生のお話しにもあったヨモギ餅は私の大好きです。子供の頃、家のまわりを生えていた緑色の草を一杯摘んで「ヨモギとってきたよ」と母に渡すと、ヨモギ餅を作ってくれました。春の香りがふんわり漂う思い出の味を私も是非つくってみたいと思います。(石)

編集後記